

プリマス大学の研究者と共同で三陸海岸における津波石の調査を行いました (2023/4/17-19)

テーマ：2011年東北沖津波、津波石
会場：三陸海岸

2023年4月17～19日に、当研究所とプリマス大学（イギリス）の研究者が共同で、三陸海岸の津波石を調査しました。津波石は津波で運搬された岩塊であり、その運搬過程から津波の挙動やエネルギーを知ることができます。プリマス大学からは、海岸工学や堆積学を専門とするAlison Raby教授、Sarah Boulton准教授、Storm Roberts氏（博士課程）が参加し、当研究所からは菅原大助准教授（津波工学研究分野）と石澤堯史助教（陸域地震学・火山学研究分野）、増田英敏氏（理学研究科 地学専攻 修士課程）が参加しました。

本調査は菅原准教授と石澤助教でマネジメントを行い、津波石が現在でも観察できる地点を案内しました。現地では、菅原准教授と石澤助教が2011年東北沖津波やそれ以前に発生した津波の高さや浸水範囲について、当研究所で整備している[津波痕跡データベース](#)を基に解説しました。その後、各津波によって運搬された津波石を観察し、その運搬過程を議論しました。プリマス大学の研究者は、ドローンやLidar（レーザー光を用いた測距技術）などの最新の観測機器を用いて、高精度で津波石の形状や体積を測定しました。今回の計測結果から、津波石と津波石を運搬した津波の関係がより詳細に判明する見込みです。

プリマス大学と当研究所は、今後も三陸海岸での津波石の調査を継続する予定です。



Lidar を用いた津波石の計測



津波石の前での集合写真

参考：

プリマス大学（COAST Engineering Research Group）

<https://www.plymouth.ac.uk/research/coast-engineering-research-group>

プリマス大学（School of Geography, Earth and Environmental Sciences）

<https://www.plymouth.ac.uk/schools/school-of-geography-earth-and-environmental-sciences>

文責：石澤堯史（陸域地震学・火山学研究分野）